



人文芸術 輝く南科



■ 台南園區に喬木2000本、苗木8000本を植樹(2013.01.11)

植樹に尽力 CO₂を削減

朱敬一・前国科会主任委員が南科を視察に訪れた2012年2月当時、台南園區には10.4万本、高雄園區には3万本の喬木が植えられていましたが、これではあまりに少ないとの朱委員の意見を取り入れ、南科管理局は「五年植樹倍增計画」を策定しました。その後二年余りの努力によって3万8千本以上（台南園區には2万本以上、高雄園區には1万8千本以上）が植樹された南科の森は、計画の実現に向けて着実に成長しつつあります。

太陽光発電システム設置モデル事業 入居企業にも設置の動き

南科管理局は公的建築物の屋上に太陽光発電システムを設置するモデル事業を積極的に展開していますが、単に電力消費を太陽エネルギーに置き換えるだけでなく、建築物が直射日光に晒されることで生じる室内温度の上昇を抑制するなどの効果も現れています。2013年末までに設置が完了した発電システムの発電能力は413.8kWpで台南園區の街灯に必要な電力の10%に相当します。これによって一年当たり51.3万kWhの電力を生み、約2532トンのCO₂排出を削減することができます。

また、南科では入居企業に対しても500kW以下の太陽光発電システムを屋上に設置するよう奨励しており、



■ 太陽エネルギー集熱板

2013年末の時点で計4182.5kWp分の発電システムが完成しています。これによって毎年519万kWhの発電が可能になり、約2万5596トンのCO₂削減効果が見込まれています。